



新年のご挨拶に代えて 国立ソゲリ高等学校で 日本文化を教えて

及川 正博（当協会副会長）



新年明けましておめでとうございます。昨年 10 月、PNG に 2 週間滞在する機会を得ましたので、その体験をお話しします。目的は POM 郊外の国立ソゲリ高等学校で日本文化を教えることでした。現在そこで仙台育英高等学校から派遣され日本語の教鞭を執られている石井靖也氏が 1 昨年、関西支部の研究会に参加され懇親会の席でソゲリでの授業体験をお話し下さり、私もこのエリート高校で日本文化を教えてみたいと願い出て、彼から歓迎の言葉を頂いたのが事の発端です。ソゲリ高校では、PNG 各地から選ばれた 11・12 年生（日本の高校 2・3 年生）が、キャンパス内の寮で寝食を共にしながら勉学に勤しんでおります。

私の 7 回の授業は、英語で行いました。生徒にはまず日本語の背景を 2 回に亘って説明し、残りの 5 回は日常生活に密着した日本の生活文化を、イラストや写真付きのプリントを配布し、必要に応じて YouTube の動画を利用して展開しました。動画の効用は絶大で、生徒は衣類、食べ物、乗り物、建物、スポーツ、アニメなどを実際に画面で見、新幹線のスピードやスカイツリーの高さに歓声を上げ、ドラエモンをみ



て笑い転げるなど楽しい授業となりました。生徒からも「日の丸」の由来や侍の意味、などを尋ねられました。

授業方法は、①日本語（ローマ字表記）で書いた各項目の解説文を私の後について復唱させ、②その中の基本語と覚えるべき表現の意味を説明し、③解説文全体の意味を英語で翻訳することを基本に、日本語の発音とリズムに慣れるようにと「読む」と「聴く」にも主眼を置きました。授業の最後の 10 分を使ってその日に習った 10 個の単語の意味を問う「単語テスト」を実施して「書く」力の養成も試みました。

この「単語テスト」の結果と授業の出席率を点数化して順位を付け、最終授業で優秀者に私が日本から持参した品物（1 位：ウインド・ブレイカー、2 位：目覚まし時計、3 位：フォト・フレーム、以下、全員に筆箱、ホッチキス、5 色ボールペン、鉛筆、ノート、お菓子など）を賞品として渡すというイベント？を行い、受賞者の喜ぶ笑顔が印象的でした。今般、我が協会が成績優秀な高校生に大学での勉学生活に奨学金を供与する制度が始まりますが、これらの生徒の中から、将来、奨学生が出ることを心密かに願った次第です。



中嶋 敏（在パプアニューギニア特命全権大使）

昨年 11 月 17 日から 18 日にかけて、PNG が初の議長国となった APEC 首脳会議が首都ポートモレスビーにおいて開催され、右に出席するため、日本から安倍総理大臣が PNG を訪問されました。同会議の結果と概要については外務省のホームページのリンクをご参照願います。
(https://www.mofa.go.jp/mofaj/ecm/apec/page4_004517.html)

安倍総理は、11 月 17 日、オニール首相と二国間会談を行い、自由で開かれたインド太平洋の実現に向け、PALM8 で表明したコミットメントを着実に実施していく旨述べると共に、教育、インフラ等の経済協力を含む幅広い支援を表明しました。これに対してオニール首相から、日本の継続した支援に対する感謝の意が表されました。

また、安倍総理は、2030 年までに国民の 70%を電化するという PNG 政府の目標実現を支援するため、米国、豪州、NZ と共に協力するパートナーシップ共同声明にも署名しました。その際、安倍総理は、PNG は日本が長年に亘り協力を重ねてきた伝統的パートナーであり、有志国と連携しつつ、PNG のインフラ分野できめ細かい支援を行っていく旨述べました。これに対してオニール首相は、安倍総理を含む各国首脳に対して電化

支援に感謝する旨述べました。

日本は、PNG の APEC 開催に向けて、様々な支援を行ってきました。その中で PNG 国防軍の軍楽隊に対する能力構築支援として、2017 年 1 月以降、陸上自衛隊中央音楽隊は数週間の音楽教育を 10 回以上実施したほか、同年 3 月からは JICA の専門家も当地に派遣され、演奏指導なども行われました。更に外務省が新しい楽器一式を提供し、また、日本国内で一般公募して選ばれた行進曲「March “Port Moresby”」を軍楽隊に贈りました。PNG に姉妹校を持つ仙台育英学園からは中古楽器一式を寄贈して頂きました。

「オールジャパン」による軍楽隊支援を受けた PNG の軍楽隊は、11 月 17 日、APEC のガラディナー会場で歓迎演奏を行いました。安倍総理夫妻の会場到着時には、日本の童謡「ふるさと」が演奏され、立ち止まって聴いておられた総理は演奏終了後に「ブラボー」と掛け声をかけられました。安倍昭恵夫人は総理とは別行動で軍楽隊の駐屯地を訪問され、「ふるさと」を含む演奏を聴いて涙ぐまれる場面もありました。以上の全ての日本による支援についてオニール首相は「日本から頂いた様々な支援に感謝する。日本は PNG にとって力強い友人である」と感謝の意を表明されました。



（写真：3 枚とも「官邸ホームページ」より）

荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

また今年もチャリティバザーの季節がやってきました。

昨年度はアジア婦人会設立 50 周年を迎え、皇后陛下ご臨席の下、盛大な祝賀会が ANA Intercontinental Hotel にて 10 月に開催されました。

本バザーは、アジア、大洋州 26 か国の協力のもとに開催され、当日の収益は全て参加国の福祉、教育支援、災害援助のために使われます。各国の珍しいお料理＆民芸品の販売、今年は、韓国とパキスタンの民族舞踊などをお楽しみ頂けます。

日時 2019 年 4 月 10 日 水曜日

場所 ANA インターコンチネンタルホテル東京 地下 1 回大宴会場

入場券（抽選券付き）2,000 円

ラッフル券（抽選券付き）500 円

尚、入場券、ラッフル券のご購入はパプアニューギニア大使館、荻原までご連絡いただければ詳細をお送りいたします。(03-3710-7001)、ogiwara@png.or.jp

2018 年の収益金は、ヤボン臨時代理大使の出身小学校である、Madang の Megiar Elementary School の学校の改修工事の一部費用と、Madam Dusava 推薦の WeCare Foundation の幼児教育センターの浄化水槽トイレの設置と、Saraga にある学校的女子用トイレ、男子用トイレの新規設置などのためにそれぞれ 50 万円をアジア婦人会から大使館経由の寄付として寄贈されました。ご協力して頂いた皆様ありがとうございました。

本年度もバザーへの皆様のご来場を心よりお待ちしております。



第 13 回 TOKTOK 会 「PNG 現地事情」 — 遺骨収集及び軍楽隊支援の現状と課題について — に参加して

協会会員 千葉孝雄

昨年 11 月 28 日に霞山会館で行われました嶋野進様の講演を拝聴する機会をいただきましたのでご報告申し上げます。嶋野様は昨年まで駐パプアニューギニア日本大使館において戦後処理関係（遺骨収集、慰霊巡拝、慰霊碑管理）及び広報文化（軍楽隊支援）を担当されておられましたので、我々協会にとっても大切な事業として認識しております遺骨収集の情報収集作業がどのように行われていたのか、また APEC にて無事に大役を終えられた PNG 軍楽隊の育成の様子など、非常に興味深いお話の数々でした。

まず、ご遺骨の調査においては、シドニー大学で学生らをリクルートして日本兵のご遺骨情報をコンピューターネットワークなどから、一つ一つ探していくという気の遠くなるような作業をされていたこと。それらの情報をもとに在ポートモレスビーの調査チームが当時描かれた地図を現在の GPS に照らし合わせながら更なる現場の調査を実施し、その結果をもって遺骨収集が実施されるとのことでした。ポボンデッタ地域においては本年 2 月頃に実際の遺骨収集が実施とのこと、その成果を大いに期待したいと思います。

また軍楽隊育成では、育成開始時期からの映像を交えてのご説明を頂き、全く楽器や楽譜にふれたことのない現地隊員

に教えるにあたり、いかに自衛隊の方々が 3 年半にわたってご苦労され、その結果として相互の信頼関係が生まれ一国の軍楽隊が作られたという、貴重なお話に感動いたしました。

軍楽隊の活躍は広く報道もされ、我々も知るところとなりましたが、協会も軍楽隊支援においては、少なからずご協力が出来たとも聞き及んでおりますので、協会として参加できたことは誇らしくも思われました。

講演後の懇親会では、堀江名誉顧問や、防衛省の関係者の方とも本事業についてお話をする機会があり、色々学ぶことが多いい TOKTOK 会であったと思います。



日本・パプアニューギニア協会の皆様、こんにちは。
住友林業と申します。当社は海外における植林事業として、PNG、ニュージーランド、インドネシアの3ヶ国で山林を取得しています。PNGにおいてはグループ会社のOpen Bay Timber社（以下、OBT社）を通じ、ニューブリテン島（東ニューブリテン州）のオープンベイにて約31,260haの大規模植林事業を行っています。31,260haは、山手線内側の面積（約6,300ha）の5倍近くに相当します。OBT社は1971年に設立され、1984年より植林事業を開始、2007年より住友林業グループの一員となっております。

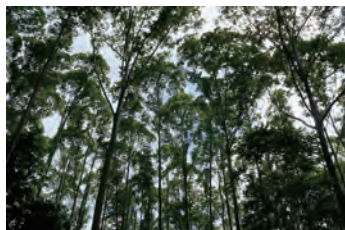
日本人駐在員はオープンベイに4人と、本社を置くココポに1人の合計5人がおり、現地の人を合わせた全体では約270名の従業員が働いています。全員で力を合わせ、植え付けから伐採までの山林管理を行っています。

植林している樹種はカメレレというユーカリの一種で、植栽から伐採までを18年周期で実施しています。カメレレはユーカリの中でも耐久性に優れた樹種で、OBT社で生産した丸太はベトナムに輸出し、そこで主にアウトドア家具に加工され、欧州をはじめ世界中で利用されています。伐採後は再び植林を行い、育てた木をまた伐採し循環していく、という持続可能な事業を行っています。

オープンベイはココポから3時間以上もかかる場所であり、道路や電力、通信といったインフラも整備されていない非常に生活環境の厳しい地域です。そこで地域への貢献として、本業による雇用の創出の他、道路や橋といったインフラ整備、村への電力供給、小学校や教会の建設、クリニックの運営、急患のボートでの国立病院への搬送など、多岐に渡って行っております。山林管理という土地に根差した事業には地元住民からの協力が欠かせないため、地域と一体となって事業を行っています。

またOBT社は、FSC認証という、適切な森林管理が行われているという国際的な認証をPNGで最初に取得した企業です。同認証の取得や継続には、環境への配慮を行うと共に、特に地域社会の利益にかなった事業を行うことが求められます。FSC由来の製品（家具の他、ダンボールや紙など）にはロゴが付き区別をされます。家具製品を購入する欧州の人々は環境への意識が非常に高く、認証を取得していることは同マーケットでの販売においてほぼ必須となっています。

私達はこれからも環境に配慮した植林事業を通じ、地域社会への貢献を続けて参ります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



植林され育ったカメレレ



カメレレの苗木および苗畑施設



オープンベイ地域の子ども



位置図

事務局からのお知らせ

2019年最初のごらくちょうですが、諸般の事情で発行お届けが遅れましたことお詫び申し上げます。

本年もよろしくお願いいたします。

1月21日に堀江名誉顧問、山下会長、事務局で朝霞の陸上自衛隊中央音楽隊へPNG軍楽隊育成への感謝状をお届けしてまいりました。後日ご報告できると思います。

次回のTOKTOK会は文化人類学の加原菜穂子先生により「パプアニューギニアの文化と祭り〜

ハダシの学者 西江雅之先生の足跡を中心に〜」と題して3月7日（木）18時30分より虎ノ門霞山会館にて開催です。

当日故西江雅之先生の没後発刊の貴重な書籍も販売予定です。

皆様のご参加をお待ち致しております。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っています。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：29社 ◆ 個人会員：150名（2019年1月25日現在）

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン株式会社
TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員5,000円 法人会員50,000円 学生1,000円 PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ